

高等学校 英語科

1 単元について

対 象 学 年	高等学校 2年
学習指導要領	読むこと 書くこと
単 元 名	Lesson 1 Different People, Different Maps ( 全4時間 ) English Course
単 元 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明を求めたりしながら、類推力を働かせて読みとろうとしている。</li> <li>・英文の内容構成に注意しながら論理的に書き続けている。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)</li>   <li>・文化の違いについて感じたことを適切に書き表すことができる。</li> <li>・文章の内容について既習の表現、文法を用いて、読み手に伝わるように書くことができる。 (表現の能力)</li>   <li>・異文化理解に関する英文を、単語や熟語、構造や内容に注意しながら正確に読み取ることができる。 (理解の能力)</li> <li>・国により地図の作製についての考え方が異なり、さらに中心となる国が違うことを理解している。</li> <li>・間接疑問文や仮定法について理解している。 (言語や文化についての知識・理解)</li> </ul>
配 慮 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地で用いられている様々な地図を実際に用意して、生徒たちに見せ、そこに盛り込まれている考え方や、文化の違いなどを考えさせる。</li> <li>・実際に使用する場面を想定することで、活動への興味・関心を高め、気持ちが込もった表現活動になるように工夫する。</li> <li>・仮定法、間接疑問文などを含む英文の構造や基本的な英文のリズムに慣れ、定着を図るために、語を入れ替えた文型練習、音読などの活動を取り入れ、各単位時間における活動内容を工夫する。</li> <li>・言語材料「音声」の「発音」「音変化」「基本的な強勢」「基本的なイントネーション」「区切り」等、基本的な英語の音声の特徴については、教科書本文の音読等を通じて、毎時間繰り返し練習し、習熟を図る。</li> </ul>
参 考 資 料	資料 1 予習プリント 資料 2 生徒自身による自己評価

2 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
読むことの評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題について英語の情報を正しく読み取ることができる。</li> <li>・読んだ内容について概要や要点の把握をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。</li> </ul>
話すことの評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面や相手などに応じて適切な英語を用いて、自分の考えや気持ちを正しく表現することができる。</li> <li>・適切な英語の表現を用いて、場面や状況に応じて適切に書き表すことができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。</li> </ul>
単元における評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明を求めたりしながら、類推力を働かせて読みとろうとしている。</li> <li>・英文の内容構成に注意しながら論理的に書き続けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の内容や自分の解釈が聞き手に伝わるように音読することができる。</li> <li>・文化の違いについて感じたことを適切に書き表すことができる。</li> <li>・既習の表現、文法を用いて読み手に伝わるように書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解や地図作製に関する英文を、単語や熟語、構造や内容に注意しながら正確に読みとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮定法や不定詞の用法を理解している。</li> <li>・地図作製の観点から国際理解を深めている。</li> </ul>

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
学習活動における具体的な評価規準	<p>辞書を引いたり説明を求めたりしながら、類推力を働かせて読みとろうとしている。</p> <p>英文の構成・内容に注意しながら、論理的に書き続けている。 (本文中で使用されたキーワードが適切に盛り込まれている。)</p>	<p>強勢、イントネーション、区切りなどに留意しながら適切に音読することができる。</p> <p>本文中で学習した表現や構文を用いて自分の考えや気持ちを書き表すことができる。</p> <p>本文中で学習した表現や構文を発展させて、多くの英文を作ることができる。</p>	<p>まとまった量の英文を読んでその内容について概要をつかむことができる。</p> <p>書かれた内容についてセンスグループやキーワードに着目しながら必要な情報を正確に読み取ることができる。</p>	<p>間接話法や仮定法について使い方を理解している。</p> <p>地図の作製に国民感情や自国の意識が反映されることを理解している。</p>

3 指導と評価の計画（全4時間）

時	学習目標	学習活動	評価規準				評価方法	指導・援助
			ア	イ	ウ	エ		
1	<p>○違う文化的背景を持った人々の考え方への理解を深める。</p> <p>○正確に音読する。</p> <p>○不定詞の独立用法や仮定法過去の意味・形態・機能を正しく理解する。</p>	<p>○国際理解の観点から地図の見方の相違点、文化的背景の違いを理解する。</p> <p>○予習プリントにより単語・熟語の意味を確認する。</p> <p>○音読を行う。</p> <p>○全般的な意味の確認</p> <p>・不定詞の独立用法、仮定法、ask 人+ to 不定詞の構文に注意する。</p> <p>○上記の項目について英作を試みる。</p>					<p>・活動の観察</p> <p>・予習プリントの記入状況</p> <p>・机間指導</p> <p>・活動の観察</p> <p>(授業後)</p> <p>・学習プリントの記入状況</p>	<p>・世界で用いられているさまざまな地図を実際に見せて理解を促す。</p> <p>・音読により文章の流れに慣れさせ、リズムを会得させる。</p> <p>・構文の構造をFor Studyで参照させる。</p>
2	<p>○付帯状況のwithの用法を正しく理解する。</p> <p>as well as, so + 倒置の表現、such as be likely to の意味、用法を正しく理解する。</p> <p>○イントネーションや区切りの重要性を理解する。</p>	<p>○前回の授業の復習を内容、語彙の点から行う。</p> <p>○本時の学習課題文を確認する。</p> <p>・with + 前置詞句</p> <p>・so + 倒置</p> <p>・such as</p> <p>・as well as</p> <p>○上記の構文を用いて身の回りのことを表現し、発表する。</p> <p>○英語の音声、強弱、区切り、イントネーションなどに気をつけながら音読する。</p>					<p>・相互評価</p> <p>・ノートの記入状況</p> <p>・活動の観察</p> <p>・活動の観察</p> <p>・自己評価</p> <p>・机間指導</p>	<p>・積極的に参加させる。</p> <p>・板書事項をノートに正確に記入させる。</p> <p>・できるだけ明瞭な音声で自然な速さで話させる。</p> <p>・特に文強勢と区切りに留意させる。</p>

時	学習目標	学習活動	評価規準				評価方法	指導・援助
			ア	イ	ウ	エ		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ S+V+O+to be の用法、前置詞 + 疑問詞節の用法、let+O+原形の用法を理解する</li> <li>○ 本文を読んで考えることを英語でまとめてみる。</li> <li>○ 本文の英語による要約。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前回の復習を内容、語彙の点から行う。</li> <li>○ 本時の学習課題文を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ in terms of</li> <li>・ because of</li> </ul> </li> <li>○ 発音練習、音読</li> <li>○ 本文の意味の確認（センスグループ）</li> <li>○ なるべく本文で学習した表現を用い感想を書き、発表する。</li> <li>○ 英文によるまとめ。</li> <li>○ Comprehension に答える。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相互評価</li> <li>・ ノートの記入状況</li> <li>・ 音声、区切りの相互評価</li> <li>・ 相互評価</li> <li>・ ノートの記入状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に参加させる。</li> <li>・ 板書事項を正確にノートに記入させる。</li> <li>・ できるだけ自然な速度で明瞭な音声で話させる。</li> <li>・ ノートを提出させて、添削する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 反復を避ける that, those の使い方を学習する</li> <li>○ 本文の語彙・構文の用法を学習する。</li> <li>○ 単語の発音を正確に覚える。</li> <li>○ 学習した構文・語彙を用いてスキットを作り発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 反復を避ける that, those の練習をする。</li> <li>○ 本文の語彙・構文の用法について確認する。(グループ・ワーク)</li> <li>○ ペアまたはグループでお互いの発音をチェックする。</li> <li>○ スキットのテーマを与える。</li> <li>相互に評価し合う。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の観察</li> <li>・ 活動の観察</li> <li>・ 発音の相互評価</li> <li>・ 活動の観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に参加させる。</li> <li>・ 文の構造に留意させる。</li> <li>・ 机間指導により発音の誤りを訂正する。</li> <li>・ 本文で学習した構文・語彙が適切に使用されているか確認する。</li> </ul>

#### 4 単位時間の授業展開例

##### (1) 本時の目標

- ・ 仮定法、間接疑問文の用法を理解する。
- ・ 世界にはさまざまな地図があり、価値観や国情が地図の配置に大きく影響していることを理解する。

##### (2) 本時の位置

1 / 4時

##### (3) 展開例

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助について
導 入	<p>教師が、数力国で用いられている地図を見せ違いを説明する。</p> <p>予習プリントをもとに黒板に単語・熟語の意味を書き出す。</p> <p>・ 生徒は黒板に指名された語の意味を書く。 ・ 予習プリントに書き込む。</p>	<p>エ - (活動の記録)</p> <p>○ア -</p> <p>・ 机間指導をして、個々の生徒の学習状況、取組の状況を確認し、本文の内容に合った意味を調べられているかチェックする。</p>	<p>・ 世界各国の位置関係、地理をあわせて説明する。</p> <p>・ 表現内容に応じて語彙の意味を使い分ける必要があることを指導する。</p> <p>・ 発音記号にも注意させる。</p> <p>・ スペリングをチェックする。</p> <p>・ 机間指導を行う。</p>
展 開	<p>教師の、モデルリーディングの後、音読練習。</p> <p>・ ペアで音読練習。 ○本文の全体の意味の解説。 ○本時の学習課題を確認する。</p>	<p>・ 積極的に取り組んでいるか確認する。</p> <p>・ 文の区切りに注意して読んでいるか。</p>	<p>・ 仮定法についての例文を板書し、現在や過去の現実に反する仮定をする時に用いられる表現であることを多くの例文から明確にする。</p>
終 末	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・ Title: in an uninhabited island (上記のタイトルでダイアログ作成を試みる)</p> </div> <p>上記表現を用いてストーリーを書く。(ペア・ワーク)</p> <p>・ 上記の発表をする。</p> <p>○与えられた日本語を仮定法、及び間接疑問文を用いて英語にする。</p> <p>・ 板書して発表する。</p> <p>○本時と本単元の学習を振り返る。</p>	<p>エ - (活動の観察)</p> <p>・ 仮定法は現実とは逆のことを述べる時に使用されることを理解している。</p> <p>・ 即興性や創意工夫が見られるかどうか。会話が途切れることがないか。</p> <p>・ 本授業のねらいを再確認した後、自己評価を行う。</p>	<p>・ 仮定法の用法を確認する。主節と従属節の区別を明確にする。</p> <p>・ 実際の状況でどのように用いたらよいかを納得させながら指導する。</p> <p>・ 自己評価を適切に行わせる指導をする。</p>

5 . 評価の実際と個に応じた指導事例  
( 1 ) 本時重点的に取り上げた評価規準

イー

本文で学習した表現や構文を発展させて多くの英文を作ることができる。

( 2 ) 評価の実際

評価の方法

机間指導 ( グループ内での相互チェック )

- ・グループ内でお互いの英文をチェックし、表現がどのような内容で用いられているか、または、使われ方が適切かチェックする。
  - ・全員が自分の作って見た英文を声に出して読み、発表する。またなぜ表現を用いたかをグループメンバーに説明する。またストーリーのおもしろさにも注意する。
  - ・JTEはその場で出された語について質問やコメントを加えながら内容を評価する。
- ( 予習プリントの活用をする )
- ・表現、構文の意味や用法を正しく理解されているか。
  - ・意味がしっかりと調べて記入されているかチェックする。

授業後の点検

- ・授業後、ノートを提出させ、点検をする。ただ文の数ばかりを評価するのではなく自分の考えや感想を記入させ、話を作る上での工夫、理解度を見る。また、「予習プリント」の記入状況も評価の対象にし、文もなるべく多く ( 5 センテンス以上 ) 作る。

評価の決定

- ・英作文作成の際には少なくとも3つ以上文があること。( B 以上になるため )
- ・基本的な文の構造が理解されていれば ( B 以上 ) と判断する。

( 例 1 ) 仮定法過去を用いた表現を使う場合。

If 節の中が過去形、帰結節中に助動詞の過去形が用いてあれば ( B 以上 ) と与える。

- ・ If he had ten thousand yen, I would buy this book.
- ・ If she were much taller, she would be basket player. ( 不適切なところがある )
- ・ If she were my daughter, she were a good assistant. ×

( 例 2 ) 英作文を作るに当たって

一応本文に出てきた表現を用いてストーリーが出来ていれば。

- ・ If I were a little richer, I could buy this house. In terms of the price, this house is a very good deal. To judge from what the dealer says, the quality is the best. I will ask my father to help me pay it. But he is likely to refuse. In reality, he is stubborn.
- ・ If I were go to Tokyo, I went shopping to the supermarket. To judge from my father says, the quality of the things are better than those of Gifu. ×  
( 文が2つと少ない上に、文の構造も理解されていない。×としてさらに指導を加える必要がある。 )

( 3 ) 個に応じた指導の実際

( 1 ) 個の学習状況に応じた手だて

- ・文の構造がよくわからない生徒に対して ( 今回の場合、不定詞とは何か、あるいは仮定法がどんな構造になるのかわからない ) は、不定詞と接続詞の区別が出来ない、つまり文の構造の基本が理解できていない生徒にはやさしい例文を豊富に示してそれを音声面を含めて声に出して言わせる指導を試みた。
- ・考えをうまく表現できない生徒に対して  
まずはやさしい短い英文で簡潔に表現させ、徐々に長い英語で表現するように指導していく。また慣れてくるにつれて、より多くの英文を作らせるようにする。

( 2 ) 単元を通じた継続的な手だて

- ・グループ内で発表させるとなると、自分の英語の特に文法や発音の点で自信のない生徒は自分の能力が劣っていると過度に意識して黙ってしまいがちになる。最初は不完全であってもそれを少し手助けをすることで徐々に自信を付けさせ、劣等感を克服してやるのが肝心である。教師は机間指導をしながら少しでも生徒の良い点を誉め、認めてやるのが大切であろう。

## 評価から評定への総括

### 1. 評価

英語 において評価をして行くに当たって、次のような評価計画を立ててみた。

- (ア) 補助簿の作成
- (イ) テスト作成
- (ウ) ウェイトバランス表の作成

#### (ア) 補助簿の作成

全体の統一をとるために、単元ごとに下記の補助簿を作成してみる。

	単元における具体的評価規準	評価の方法	Lesson 1	Lesson 2	Lesson 3
関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	言語活動への取組ができている	グループ学習、ペア・ワークの観察	B	A	A
	コミュニケーションの継続	スキットの作成・発表等の観察	A	A	B
表 現	正確さ	授業ノート・プリントのチェック	A	B	B
	適切さ	スキットの発表の観察	C	B	B
理 解	正確さ	ノート点検によるチェック	A	A	A
	適切さ	活動の観察・机間指導など	A	B	B
知 識	言語についての理解	ノート・プリント等のチェック	A	A	C
	文化についての理解	プリント等のチェック	B	B	A

#### (イ) テストの作成

##### (1) 定期テストにおける評価の留意点

前期中間考査（リスニング・リーディング・ライティング・語彙の定着チェック）

前期期末テスト（リスニング・リーディング・ライティング・英作文等）

後期中間テスト（リスニング・リーディング・ライティング・内容把握等）

学年末テスト（リスニング・リーディング・ライティング・語彙の定着チェック）

各テストにおいては「表現」「理解」「知識」をバランスよく評価できる問題を熟慮



して出題する。「表現」については下記のインタビューテスト、スキットなどにおいても評価する。

(2) インタビューテスト

ALT を活用してインタビューテストを行う。内容は、なるべく本文の表現を用いた QUESTION AND ANSWER を中心に面接を行う。観点別に ABC で評価する。

(ウ) ウェイトバランス表

観 点	評価方法	配 分
関心・意欲・態度	授業における評価	10%
表現の能力	授業における評価	15%
	インタビューテスト	10%
	定期テスト	10%
理解の能力	授業における評価	10%
	定期テスト	15%
知識・理解	授業における評価	15%
	定期テスト	15%

・留意点

定期テスト(インタビューテストを含む)50%、授業の活動の評価50%とする。

・評定の算出

最後に評定を出して生徒・保護者に知らせる段階になる。上記のようにテストと授業のウェイトを半々にしたところでそれぞれの評価を点数化し、合計する。

定期テスト(インタビューテストを含む)と授業中の評価との平均を取る考え方。

A・・・3点      B・・・2点      C・・・1点とする。

4回の定期テストの満点の合計を400点、インタビューテストの点数の満点の合計を、100点とする。

(4回の定期テストの合計+インタビューテストの点数)÷500×100・・・

評価点数の合計÷(評価の回数×3)×100・・・

と の平均で評定を付ける。

(換算表)

90以上   ・・・5      70～89・・・4      40～69・・・3  
20～39・・・2      19以下   ・・・1

(例)評価する項目が合計30の場合は、持ち点が65とする。

4回の定期テストの合計が360点、インタビューテストの合計が68点の場合、この生徒の評定は

(360+68)÷500×100=85.6・・・(四捨五入して86)

65÷90×100=72.2222・・・(四捨五入して72)

(86+72)÷2=77      よって4が評定となる。

## 資料 1 . 予習プリント

A. 次の語の意味を調べてみよう。

exact	geographer	discovery
dominate	geography	such as
more than	middle	at least
upper	edge	place ( 動詞 )
map	projection	
reveal	commonly	

B. 次の語の指示された語形を調べてみよう。

reveal ( 名詞形 )                      draw の過去形(                      )過去分詞形(                      )  
different ( 名詞形 )  
Europe ( 形容詞形 )

---

---

C. 構文理解のために。

1. To be more exact, it dominates the upper class. 「もっと正確に言うと、・・・」  
文中の他の部分から独立して、文全体を修飾する不定詞を独立不定詞という用法。

( 例 )

To be frank with you, I don't like the way you talk.

率直に言うと、君のしゃべり方が気に入らない。

To tell the truth, the butterfly sees nothing but what it needs to see.

実を言うと、チョウは見る必要のあるもの以外は何も見えない。

2. If you were asked to draw a world map, where would you put Japan?

If ... 過去形、 S + would, could・・・原形「もし～ならば・・・だろう」という形で、  
現在の事実に反することを表す。

( 例 )

If I were you, I wouldn't worry.

もし僕が君だったら、くよくよしないだろうに。

If your dad were here, what would he say?

もしお父さんがここにいたら、何と言うでしょう？

3. Geographer Thomas F. Saarinen asked students who had taken at least one geography course to  
draw a world map in 30 minutes.

ask 人 + to ~で「人に～する事を頼む」の意味で読みとる。who から course までは  
students を修飾する関係詞節。

---

---

英作文 ( 次の日本語を英語にしてみよう )

1. 実を言うと私はお金を全然持っていないのです。

2. もし僕が鳥ならば、君のところに飛んでいこう。

3. 私は彼に彼女を助けるように頼もう。

## 資料 2. 生徒自身による自己評価基準

各授業についてどの程度目標を達成できたか、自分で評価してみよう。

A 満足    B ほぼ満足    C やや不満足    D 不満足

### 第1限

#### 評価項目

#### 自己評価

- ・世界地図にも国によって中心となる国に違いがあることを理解できたか (            )
- ・人に正確に理解してもらえるように発音、音読できたか。 (            )
- ・単語の意味を理解できたか。 (            )

### 第2限

#### 評価項目

#### 自己評価

- ・with + 前置詞句の使い方、such as の使い方を理解できたか。 (            )
- ・上の構文を使って身の回りのことが言えたか。 (            )
- ・友人や先生に聞こえる大きな声で発表できたか。 (            )
- ・友人や先生に自分の作った英文が理解してもらえたか。 (            )

### 第3限

#### 評価項目

#### 自己評価

- ・本時の課題文 ( that, those の使い分け... ) ( S+V+O+to 不定詞 ) の使い方を覚えられたか。 (            )
- ・この課で学習した表現を用いて意味の伝わる文を書くことができたか。 (            )
- ・明瞭な音声、英語らしいイントネーションで発表できたか。 (            )
- ・友人の発表にしっかりと耳を傾けることができたか。 (            )

### 第4限

#### 評価項目

#### 自己評価

- ・グループ学習はお互い協力し合っていたか。 (            )
- ・英作文をやりながら、本文のポイントを確認することができたか。 (            )
- ・不定詞の独立用法を、多くの用例と共に使用法を理解できたか。 (            )